

日本・英国・清国の仲間たちが合作した顕彰の碑

みねだふうこうじゅひ  
嶺田楓江寿碑



嶺田楓江は、江戸時代後期の文政元年（1818）に江戸で丹後（現在の京都府）  
田辺藩士の子として生まれ、儒学や蘭学を学び各地を遊学しました。天保14年  
（1843）には、蝦夷地（北海道）を踏査して、江戸幕府に屯田制や北方警備の  
必要性を訴えるため『海外新話』を書きました。しかしこのことで、治安を乱  
したとして捕らえられて江戸から追放されました。後に当時の請西村に移り住  
み、当地で地元子弟の教育に専念したことから、明治14年（1881）に長寿と業  
績を称えるために寿碑が建立されました。この碑は、文を重城保（初代千  
葉県議会議長）が撰し、題字を英国外交官閣斌士（後の英国ソウル総領事John  
Harrington Gubbinsと思われる）が、書を清国の劉世安が担当した三カ国合作  
の全国でも珍しい石碑です。

\*\*\*\*\*

市指定文化財：有形文化財（彫刻）

指定年月日：昭和44年7月1日

所在地：木更津市富士見1-6-4

所有者：宗教法人 八剣八幡神社

員数：1基

公開・非公開の別：公開

\*\*\*\*\*